

貸借対照表

2017年3月31日現在

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	42,709	流 動 負 債	25,124
現金及び預金	224	買 掛 金	9,466
売 掛 金	13,654	リ ー ス 債 務	155
商 品	696	未 払 金	10,087
仕 掛 品	12	未 払 費 用	3,556
貯 蔵 品	114	未 払 法 人 税 等	356
前 払 金	384	未 払 消 費 税 等	751
前 払 費 用	891	前 受 金	10
繰 延 税 金 資 産	1,953	預 り 金	269
未 収 入 金	4,067	工 事 損 失 引 当 金	20
預 け 金	20,705	資 産 除 去 債 務	356
そ の 他	17	移 転 費 用 引 当 金	95
貸 倒 引 当 金	△ 12		
固 定 資 産	20,041	固 定 負 債	16,437
有 形 固 定 資 産	7,390	リ ー ス 債 務	268
建物及び建物附属設備	4,808	退 職 給 付 引 当 金	14,358
構 築 物	89	資 産 除 去 債 務	1,401
機 械 及 び 装 置	522	移 転 費 用 引 当 金	379
車 両	0	そ の 他	30
器 具 備 品	1,576		
リ ー ス 資 産	348	負 債 合 計	41,562
建 設 仮 勘 定	44		
無 形 固 定 資 産	408	純 資 産 の 部	
電 話 加 入 権	105	株 主 資 本	21,098
ソ フ ト ウ ェ ア	297	資 本 金	100
リ ー ス 資 産	2	資 本 剰 余 金	1,570
そ の 他	2	そ の 他 資 本 剰 余 金	1,570
投 資 そ の 他 の 資 産	12,241	利 益 剰 余 金	19,428
投 資 有 価 証 券	141	利 益 準 備 金	28
関 係 会 社 株 式	17	そ の 他 利 益 剰 余 金	19,399
敷 金 ・ 保 証 金	5,409	繰 越 利 益 剰 余 金	19,399
前 払 年 金 費 用	1,730	評 価 ・ 換 算 差 額 等	90
長 期 前 払 費 用	1	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	90
繰 延 税 金 資 産	4,915		
そ の 他	28	純 資 産 合 計	21,188
貸 倒 引 当 金	△ 2		
資 産 合 計	62,750	負 債 及 び 純 資 産 合 計	62,750

(注)記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

損益計算書

自 2016年4月 1日

至 2017年3月31日

(単位:百万円)

科 目	金 額	
I 売 上 高		129,367
II 売 上 原 価		114,661
売 上 総 利 益		14,706
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		10,201
営 業 利 益		4,504
IV 営 業 外 収 益		
受 取 利 息	3	
受 取 配 当 金	2	
保 険 配 当 金	31	
雑 収 入	25	62
V 営 業 外 費 用		
支 払 利 息	14	
解 約 違 約 金	20	
雑 支 出	42	77
経 常 利 益		4,489
VI 特 別 利 益		
資 産 除 去 債 務 戻 入 益	139	139
VII 特 別 損 失		
移 転 費 用 引 当 金 繰 入 額	474	474
税 引 前 当 期 純 利 益		4,154
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,659	
法 人 税 等 調 整 額	△ 122	1,536
当 期 純 利 益		2,617

(注)記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法によっています。

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法によっています。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び貯蔵品については先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)、仕掛品については個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げ法)によっています。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっています。

なお、耐用年数については見積り耐用年数、残存価額については実質残存価額によっています。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっています。

なお、耐用年数については見積り耐用年数によっています。

また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年以内)に基づく定額法によっています。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

定額法によっています。

なお、耐用年数についてはリース期間、残存価額については実質残存価額によっています。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、破産更生債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生している額を計上しています。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっています。

なお、数理計算上の差異については、発生年度に全額を費用処理しています。

また、過去勤務費用については、発生時の従業員の平均残存勤務期間に基づく年数にわたって定額法により費用処理しています。

(3) 工事損失引当金

工事契約に係る損失に備えるため、翌事業年度以降の当該損失額を見積り、必要と認められる金額を計上しています。

(4) 移転費用引当金

当社の物流倉庫移転に伴い発生が見込まれる費用に備えるため、移転費用等の当事業年度末における合理的な見積額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事契約については工事進行基準を適用し、そ

他の工事契約については工事完成基準を適用しています。なお、工事進行基準を適用する工事の当事業年度末における進捗度の見積りは、原価比例法によっています。

5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税は、税抜方式によっています。

ただし、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税につきましては、全額費用として処理しています。

会計方針の変更に関する注記

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は建物及び建物附属設備を除く有形固定資産の減価償却方法について定率法を採用しておりましたが、2016年4月1日より定額法へ変更しております。

当社は、上記の有形固定資産が安定的に使用される体制となったことから耐用年数の全期間にわたり均等に費用配分する定額法が期間損益をより適正に表示すると判断しております。これに伴い、従来の方と比べて、当事業年度の減価償却費が78百万円減少し、「営業利益」、「経常利益」及び「税引前当期純利益」が、それぞれ同額増加しています。

表示方法の変更に関する注記

(損益計算書)

前事業年度において区分掲記していた営業外収益の「保険解約返戻金」は、当事業年度において金額的重要性がなくなったため、「雑収入」に含めています。

前事業年度において区分掲記していた営業外費用の「固定資産売却損」は、当事業年度において金額的重要性がなくなったため、「雑支出」に含めています。

会計上の見積りの変更に関する注記

当社は、当事業年度において一部のオフィス及び倉庫の不動産賃貸借契約における賃借期間を変更したことにより、当該賃借期間終了後に利用見込みのない固定資産について当事業年度より耐用年数を短縮しております。また、当該オフィス及び倉庫の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務に係る資産除去債務についても、支払発生までの見込期間を短縮し、将来にわたり変更しております。

上記の変更に伴い、従来の方と比べ、当事業年度の営業費用が、377百万円増加し、「営業利益」、「経常利益」及び「税引前当期純利益」が、それぞれ同額減少しております。

なお、一部オフィスの原状回復義務が免除されたことに伴い不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務である資産除去債務の取り崩しを行い、「特別利益」に139百万円計上しております。

貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額は、7,732百万円です。
2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務は、次のとおりです。

短期金銭債権	35,684百万円
短期金銭債務	10,323百万円
3. 損失が見込まれる工事契約に係る仕掛品と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しています。
損失の発生が見込まれる工事契約に係る仕掛品のうち、工事損失引当金に対応する額は、10百万円です。

損益計算書に関する注記

1. 関係会社との取引高は、次のとおりです。

営業取引	売上高	109,278百万円
	営業費用	38,677百万円
営業取引以外	受取利息等	5百万円
	資産売却高	2,304百万円
2. 売上原価に含まれる工事損失引当金繰入額は、13百万円です。

株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当事業年度末の発行済み株式の種類及び総数

普通株式	2,400株
------	--------
2. 配当に関する事項
 - (1) 配当金支払額
無配のため該当事項はありません。
 - (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
第25回定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり予定しています。

① 配当金の総額	2,617百万円
② 1株当たり配当額	1,090,599円
③ 基準日	2017年3月31日
④ 効力発生日	2017年6月16日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因は、退職給付引当金、未払従業員賞与の否認等であり、繰延税金負債の発生の原因は、資本直入法で計上する時価あり投資有価証券の評価差額によるものです。

なお、繰延税金資産算定に当たり控除された金額は11百万円です。

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は、資金運用については、親会社である株式会社NTTドコモが運営するキャッシュ・マネージメント・システム（以下、CMS）で行う方針です。

金銭債権である売掛金及び未収入金は、顧客等の信用リスクに晒されており、当該リスクに関しては、経理規程に従い、取引先ごとの期日管理、残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を把握する体制としています。預け金は親会社である株式会社NTTドコモに対する預け金です。投資有価証券は主に株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。敷金・保証金は、主に事務所等の賃貸借契約に伴うものです。

金銭債務である買掛金、未払金、未払法人税等、未払消費税等及び預り金は、1年以内の支払期日です。金銭債務は、流動性リスクに晒されていますが、当社は翌月以降3ヵ月分の資金計画を毎月作成するなどの方法により管理しています。ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものです。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2017年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、下表には含まれていません。

（単位：百万円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	224	224	-
(2) 売掛金	13,654		
(3) 未収入金	4,067		
貸倒引当金（*1）	△12		
	17,709	17,709	-
(4) 預け金	20,705	20,705	-
(5) 投資有価証券	141	141	-
(6) 敷金・保証金	5,409		
貸倒引当金（*2）	△2		
	5,406	5,405	△1
資産計	44,187	44,186	△1
(7) 買掛金	9,466	9,466	-
(8) 未払金	10,087	10,087	-
(9) 未払法人税等	356	356	-
(10) 未払消費税等	751	751	-
(11) 預り金	269	269	-
(12) リース債務（短期）	155	155	△0
(13) リース債務（長期）	268	267	△1
負債計	21,352	21,351	△1

（*1）売掛金及び未収入金に対応する貸倒引当金を控除しています。

（*2）敷金・保証金に対応する貸倒引当金を控除しています。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

（1）現金及び預金（2）売掛金（3）未収入金（4）預け金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

（5）投資有価証券

期末日の証券取引所における株価を基に算定しています。

(6) 敷金・保証金

敷金・保証金は事務所等の敷金であり、時価はその将来キャッシュ・フローを残存期間に対応する合理的に見積もった割引率で割り引いた現在価値により算定しています。

(7) 買掛金 (8) 未払金 (9) 未払法人税等 (10) 未払消費税等 (11) 預り金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(12)、(13) リース債務 (短期、長期)

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入又は、リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しています。

(注2) 市場価格がなく、将来キャッシュ・フローを合理的に見積もれないため、時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりです。

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額
関係会社株式	17

関連当事者との取引に関する注記

1. 親会社及び法人主要株主等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の被所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(注7)	科目	期末残高
親会社	株式会社 NTTドコモ	直接 100%	業務請負 商品仕入 販売代理店 出向者の受入 資金の預入	業務請負(注1、2)	111,193	売掛金	12,647
				ドコモショップ 運営業務(注3)	10,845	買掛金	1,422
					5,090	売掛金	618
					—	未収入金	1,968
					—	未払金	663
				システム使用料支払	3,201	未払金	1,057
				資金貸付(注4)	16,783	預け金	20,705
				利息受取(注4)	2	—	—
				出向者人件費支払(注5)	21,309	未払金 未払費用	5,138 1,602
資産の売却(注6)	2,304	—	—				

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 価格その他の取引条件は、株式会社NTTドコモとの契約により決定しています。

- (注2) 取引金額及び期末残高には、第三者であるアシュリオン・ジャパン(株)を介した取引及びそれに係る残高が含まれております。
- (注3) ドコモショップ運営業務は当社と代理店契約を結ぶ第三者のために行った商品仕入、代理店手数料の受取取引に係る残高が含まれております。当該取引に係る収益・費用は相殺処理しているため取引金額は計上されません。
- (注4) 資金の貸付・借入については、親会社が運営するCMSに係るものであり、運用利率については、株式会社NTTドコモが市場金利を勘案した利率をもとに決定しています。
なお、取引が反復的に行われているため、取引金額は期中の平均残高で記載しています。
- (注5) 出向者の受入については、出向に関する覚書に基づき、出向者人件費の支払をしています。
- (注6) 資産の売却は、当社の取得価額を基に双方協議の上、価格を決定しています。
- (注7) 上記取引金額には消費税等を含んでおりません。期末残高には消費税等を含めております。

2. 兄弟会社等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の被所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(注2)	科目	期末残高
親会社の 子会社	株式会社エヌ・ティ・ティマーケティングアクト	—	業務委託	コールセンター運営業務の委託(注1)	4,647	買掛金	1,023

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注1) コールセンター運営業務の委託については、株式会社エヌ・ティ・ティマーケティングアクトから提示された価格と、他外注先との取引価格を勘案し交渉の上、決定しております。
- (注2) 上記取引金額には消費税等を含んでおりません。期末残高には消費税等を含めております。

1 株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	8,828,733円04銭
1株当たり当期純利益	1,090,599円05銭

その他の注記

追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を適用しております。